

実践事例③【「わたしたちの体育」を活用した実践例】

第5学年 水泳運動～自己ベストを目指せ！城北スイミング～

鳥取市立城北小学校 南條 佑介

1. 授業の実際

(1) 個別の目標をもたせるための取組

学習の見通しをもたせるための『わたしたちの体育』を使ったオリエンテーションや、水泳学習の始めと終わりの記録会を設定した。最初の授業で記録会を行うことにより、現時点での自分の泳力を測るとともに、これからの水泳学習に対して具体的な数値目標を設定することで、学習のめあてとした。水泳学習の最後にも記録会を行い、学習を通して自分の力をどれくらい伸ばすことができたのか、記録を見ながら振り返りができるよう学習を計画した。

(2) 目標に合わせた場の設定

記録会を通して自分の目標を立てた後、【いるかコース】(25mの記録を早くしたいコース)、【ペンギンコース】(25mを泳ぎ切りたいコース)、【かめコース】(泳げる距離を伸ばしたいコース)の3つに分かれ、水泳学習を行った。それぞれのコースに教員を配置し、児童の実態に合わせて学習内容を工夫することを目指した。また、練習の中で「さらに上の目標を立てたい」、「もう少し基礎的な練習を行いたい」など、児童の様子を見たり声を聞いたりする中で、コースを自由に変更できるようにした。



(3) 教え合いの学習形態

学習の中で、友達の手を引いて泳ぎのサポートをするような活動を取り入れた。ビート板だけでは泳ぐことに不安がある児童も、友達と泳ぎの練習をすることで、楽しみながら学習に取り組むことができた。また、友達の泳ぎを見ることで、バタ足や手の回し方のコツをつかみ、自分の泳ぎに生かすことを目指した。その児童の取組については毎時間、『わたしたちの体育』を使って行った振り返りからも把握していった。



2. 成果と課題

○コースを分けることにより、自分の目標に合わせて学習に取り組むことができた。同じような目標を持つ友達と練習をすることにより、友達のよいところを見つけたり、お互いにアドバイスをしたりする姿も見られた。

○記録会を学習の前後で行ったことにより、児童の目標とする距離やタイムが具体的なものとなった。また、記録会を通して、自分の記録が伸びたことが数値的に見られたことにより、学習を通しての成長をより実感しやすくなった。

△児童数に対して教員の数が少なく、個人の様子を細かく観察することが難しかった。評価についても、記録をもとにした評価が主となり、大人数での学習の中でどのように個に目を向け、評価をしていくか考えていく必要がある。また、記録の伸びがなかった児童についても、どのように自分の成長を感じさせるか考えていく必要があると感じた。

△運動量の確保が十分にできたとはいえなかった。本実践ではプールを縦に使い、25mを利用して学習を進めてきたが、人数を考慮し、プール横向きにも使うことも方法の1つとして考えていきたい。